



2003年9月期第3四半期報告 フルキャスト連結業績概要

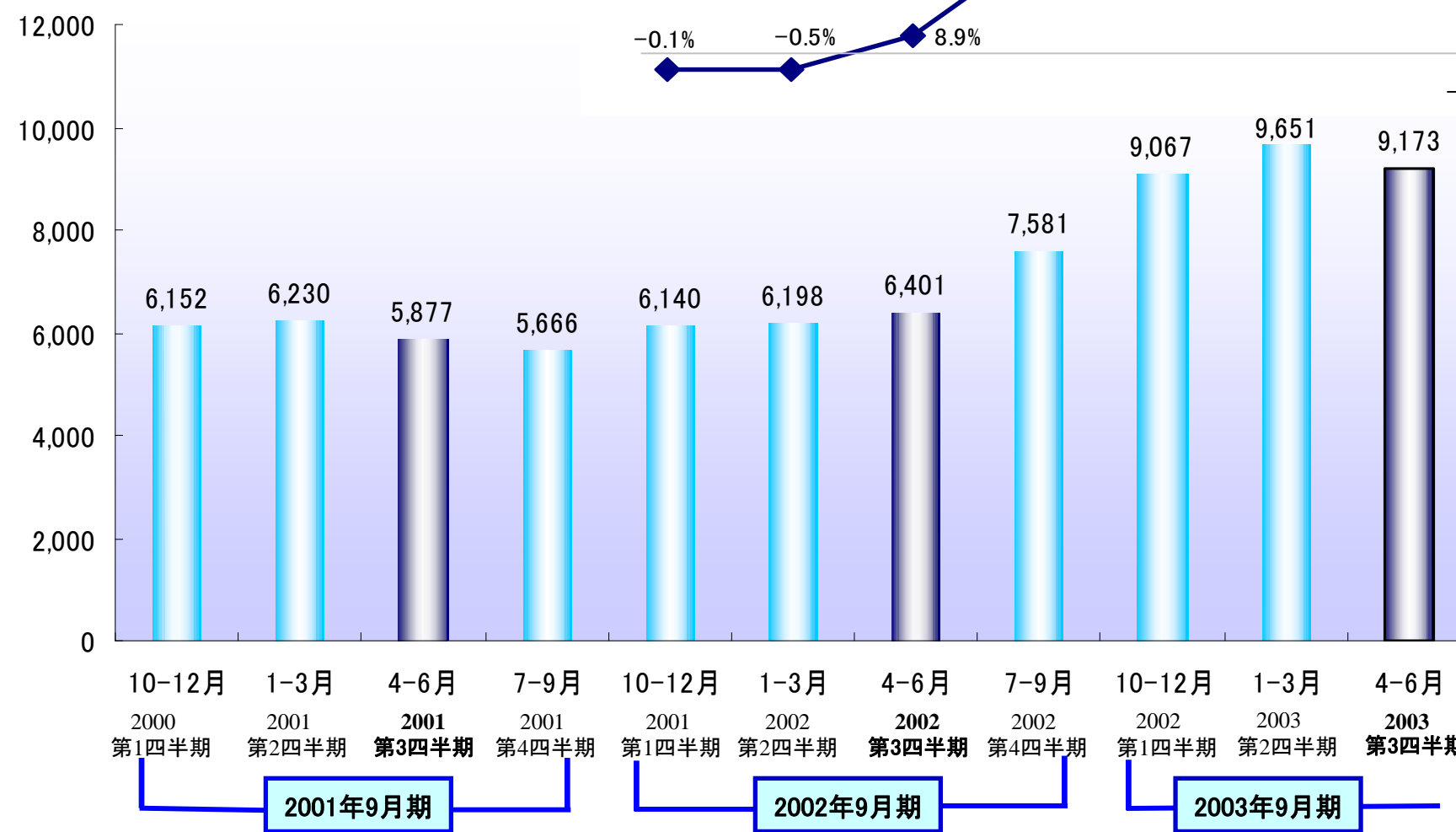
Agenda

- Highlight 2003.9月期第3四半期(2003.4~6月期)
- 2003.9月期第3四半期(2003.4~6月期)セグメント別営業実績
 - ・ スポット事業
 - ・ ファクトリー事業
 - ・ テクノロジー事業
- 2003.9月期 業績予想と進捗状況
- 経営目標



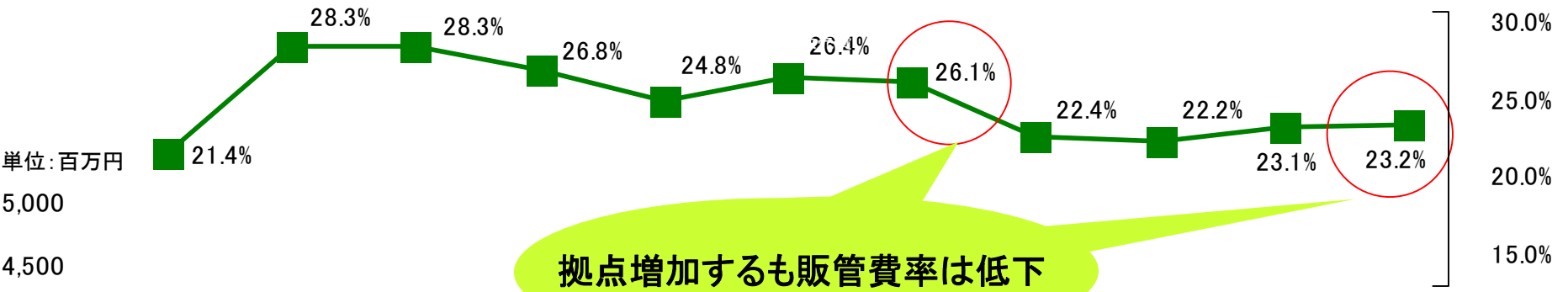
対前年同四半期増減率

単位：百万円



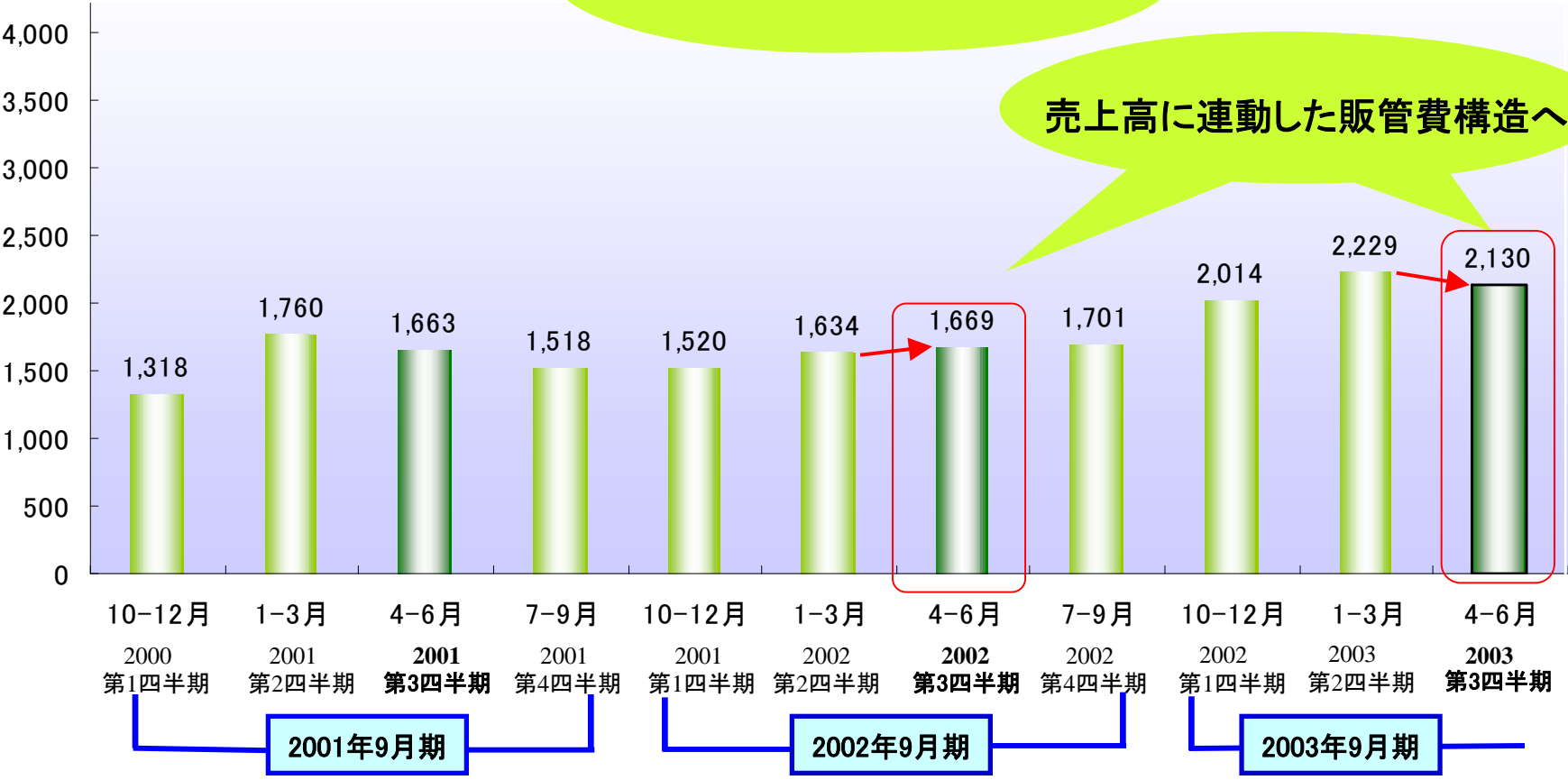


売上高販管費率



拠点増加するも販管費率は低下

売上高に連動した販管費構造へ



2001年9月期

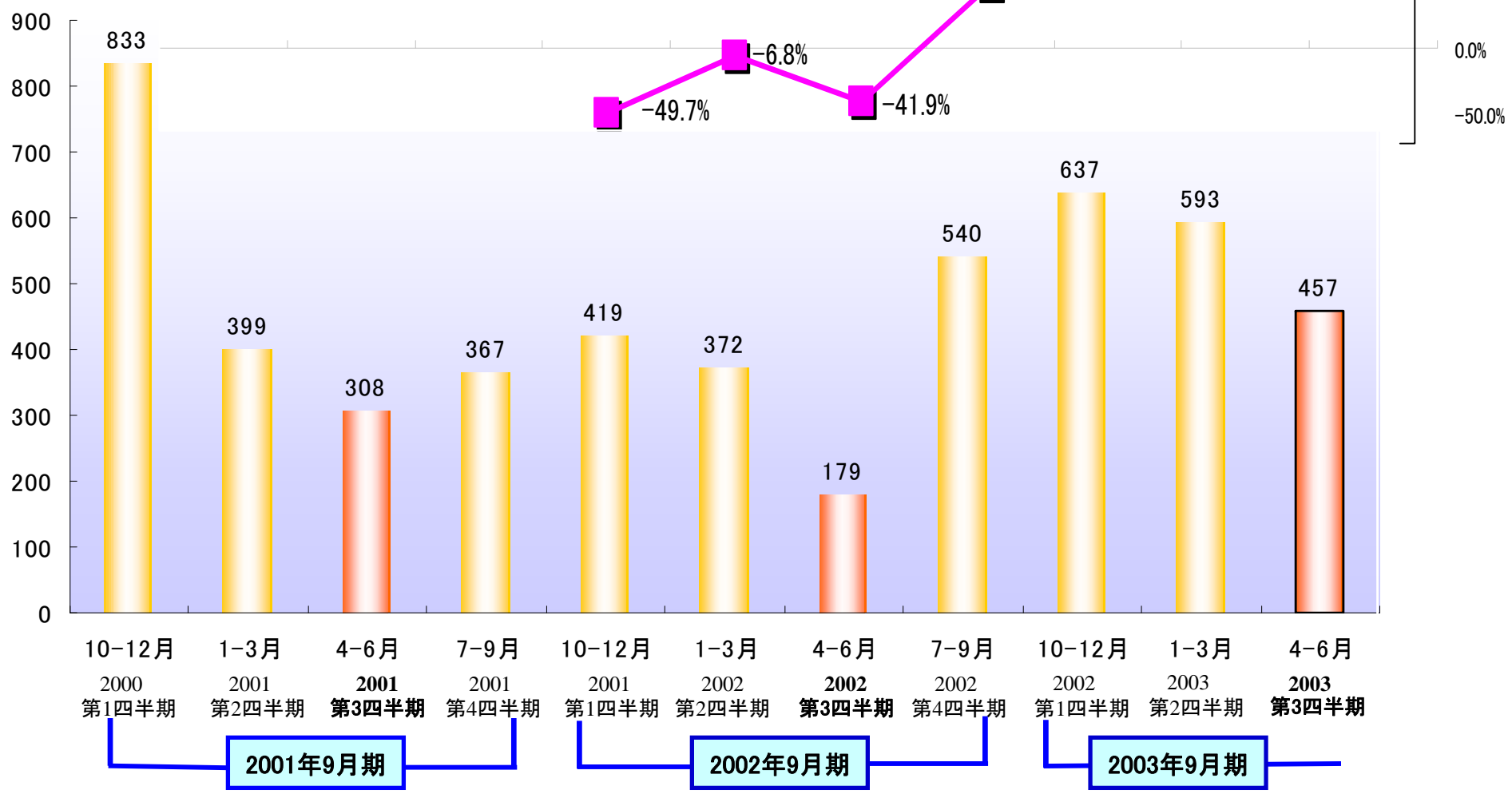
2002年9月期

2003年9月期



対前年同四半期増減率

単位：百万円



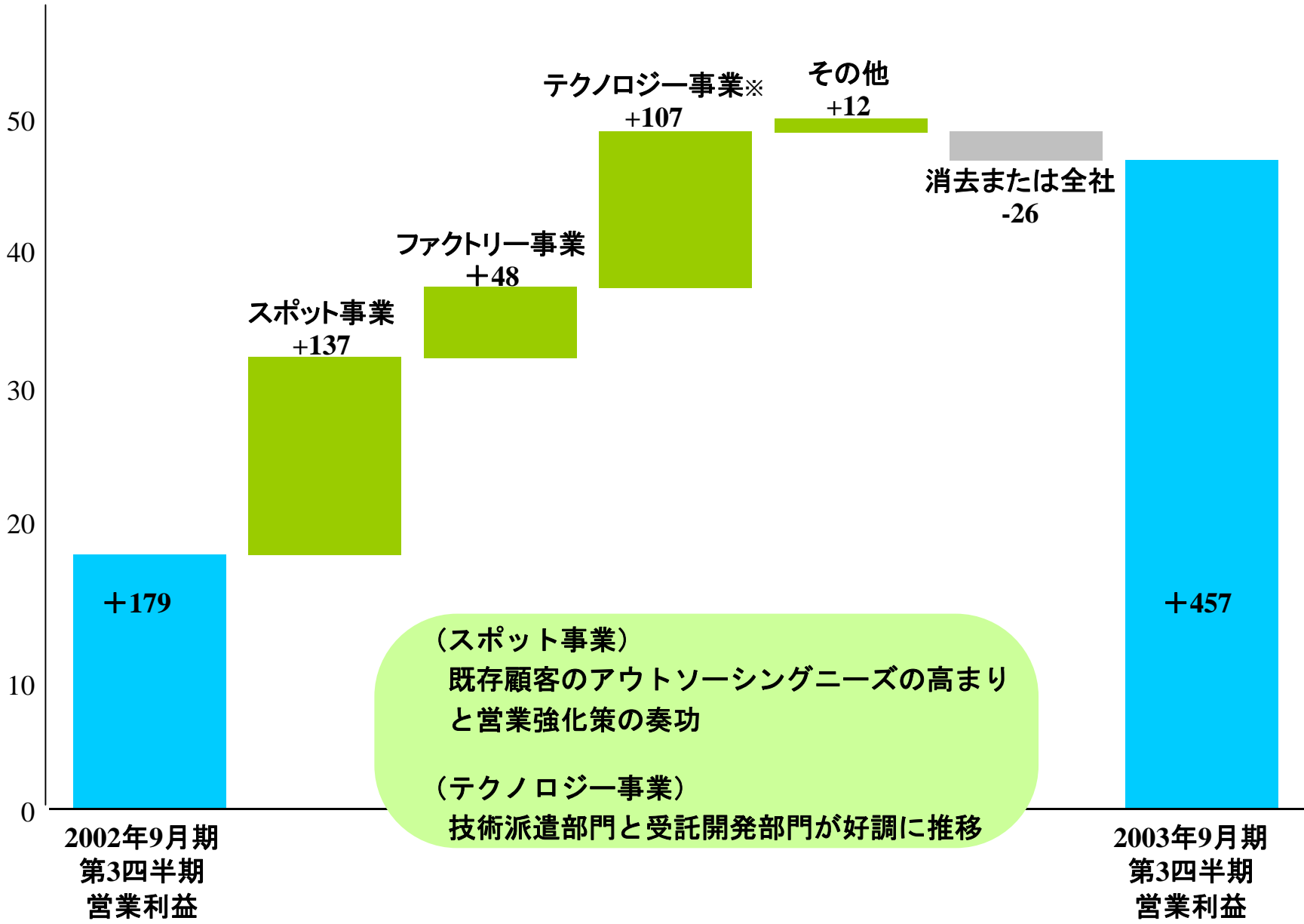
2001年9月期

2002年9月期

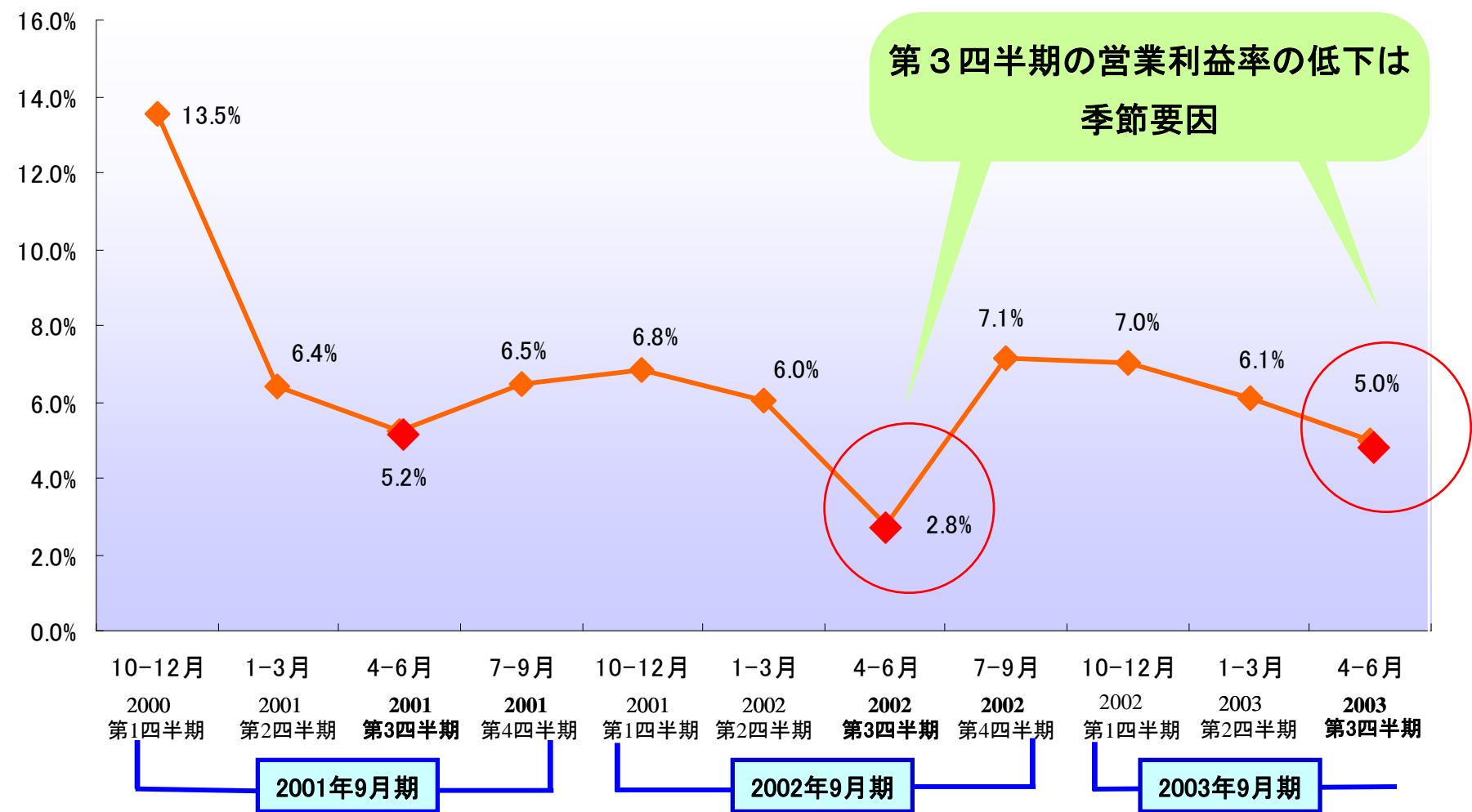
2003年9月期



単位:百万円



※テクノロジー事業は当期事業区分による増減額を記載しております。





単位: 百万円

2003年9月期第3四半期業績に対する当社見解

(スポット事業)

- ◆ アウトソーシングを有効活用するニーズの高まりと寡占化の傾向 (クライアントの物流拠点の統廃合など)
- ◆ クライアントニーズに即応するための営業拠点・採用拠点の積極的配置により発注獲得
- ◆ 当社独自のサービスであるハイクオリティ・ソリューションの売上高が順調に伸張

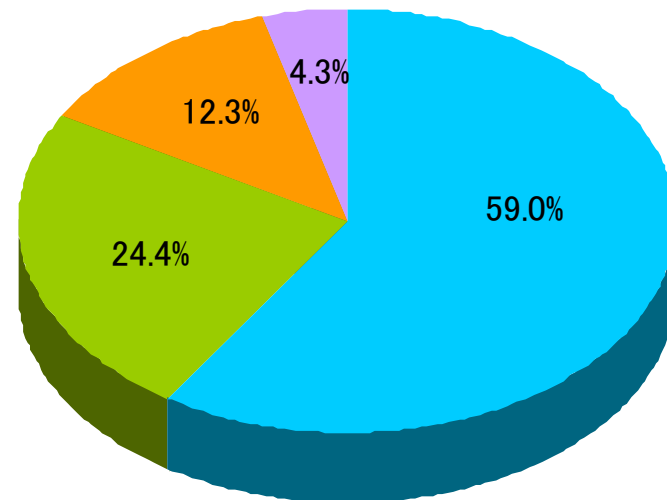
(ファクトリー事業)

- ◆ (株)FCファクトリーの適正な人員配置による営業効率の向上
- ◆ (株)FCセントラルの順調な成長

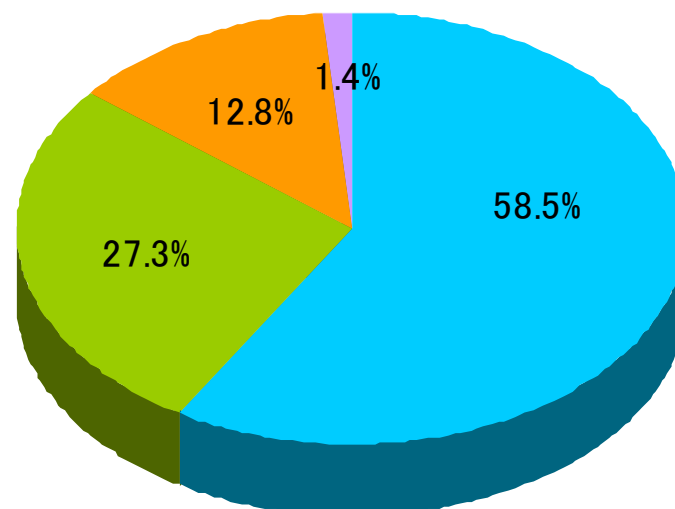
(テクノロジー事業)

- ◆ 技術者派遣部門: 順調な新卒配属による稼働率の維持
- ◆ 受託開発部門: 不採算事業整理と営業強化により利益貢献化

2002年9月期第3四半期(2002.4~6月)実績



2003年9月期第3四半期(2003.4~6月)実績



	2002.9月期第3四半期 (4~6月)		2003.9月期第3四半期 (4~6月)		前期比
	売上高	構成比	売上高	構成比	
■ スポット事業	3,776	59.0%	5,366	58.5%	142.1%
■ ファクトリー事業	1,564	24.4%	2,503	27.3%	160.1%
■ テクノロジー事業	786	12.3%	1,175	12.8%	149.5%
■ その他事業	273	4.3%	127	1.4%	-53.4%
連結	6,400	100.0%	9,173	100.0%	143.3%

※「テクノロジー事業」「その他事業」については、当期の事業区分によって計上


2003.9期中間期との比較

(単位:百万円)

	2002年 6月末	(a) 2003年 6月末	(b) 2003年 3月末	(a-b) 増減額
流動資産	8,436	9,935	10,250	△ 315
固定資産	5,385	4,008	5,714	△ 1,706
繰延資産	-	-	-	-
資産合計	13,820	13,943	15,964	△ 2,021
流動負債	4,293	4,073	6,899	△ 2,826
固定負債	2,064	790	932	△ 142
負債合計	6,356	5,493	7,831	△ 2,338
少数株主持分	47	118	103	15
資本合計	7,417	8,332	8,030	302
負債・少数株主分および資本合計	13,820	13,943	15,964	△ 2,021
売上高	18,739	27,891	18,718	9,173
営業利益	971	1,687	1,230	457
経常利益	927	1,776	1,297	480
特別損益	△ 164	47	△ 77	124
当期純利益	286	855	540	314
営業活動によるキャッシュ・フロー	△ 88	1,019	344	675
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 768	1,161	△ 483	1,644
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 624	△ 1,670	85	△ 1,754
現金及び現金同等物期末残高	3,459	4,252	3,687	565

 フルキャスト渋谷公園通りビル売却
 (平成15年4月25日付売買完済)

売買代金 2,000百万円

 預り敷金減 ▲ 75百万円
 その他諸費用等 ▲ 152百万円

残金 1,773百万円

主な用途

 借入金返済 ≒ 1,400百万円
 運転資金 ≒ 373百万円

今後の影響

1. 手元流動性を高め、今後の売上高増加に伴う売上債権の増加に対応
2. 来期金利負担減少分
年間約 15百万円

売却益 +105百万円
固定資産売却による収入 +1,959百万円

2003.9月期第3四半期(2003.4~6月期)
セグメント別営業実績

スポット事業

ハイクオリティソリューション業績の好影響

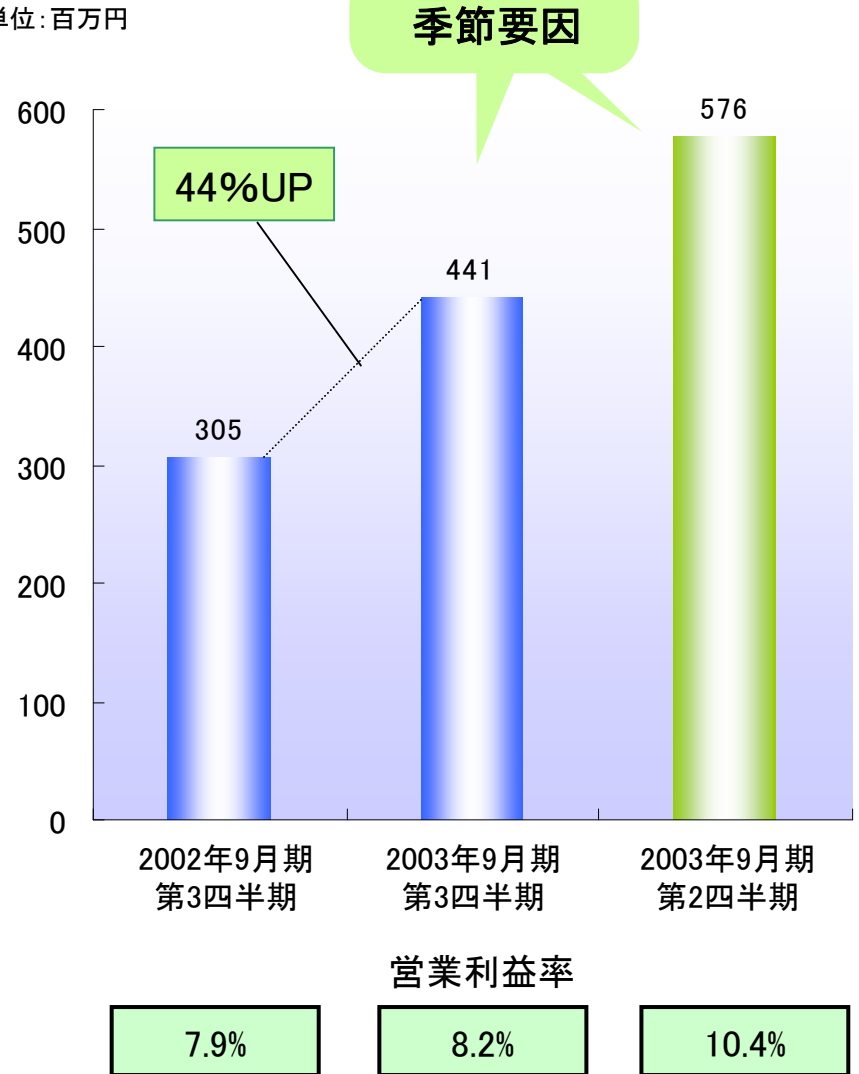
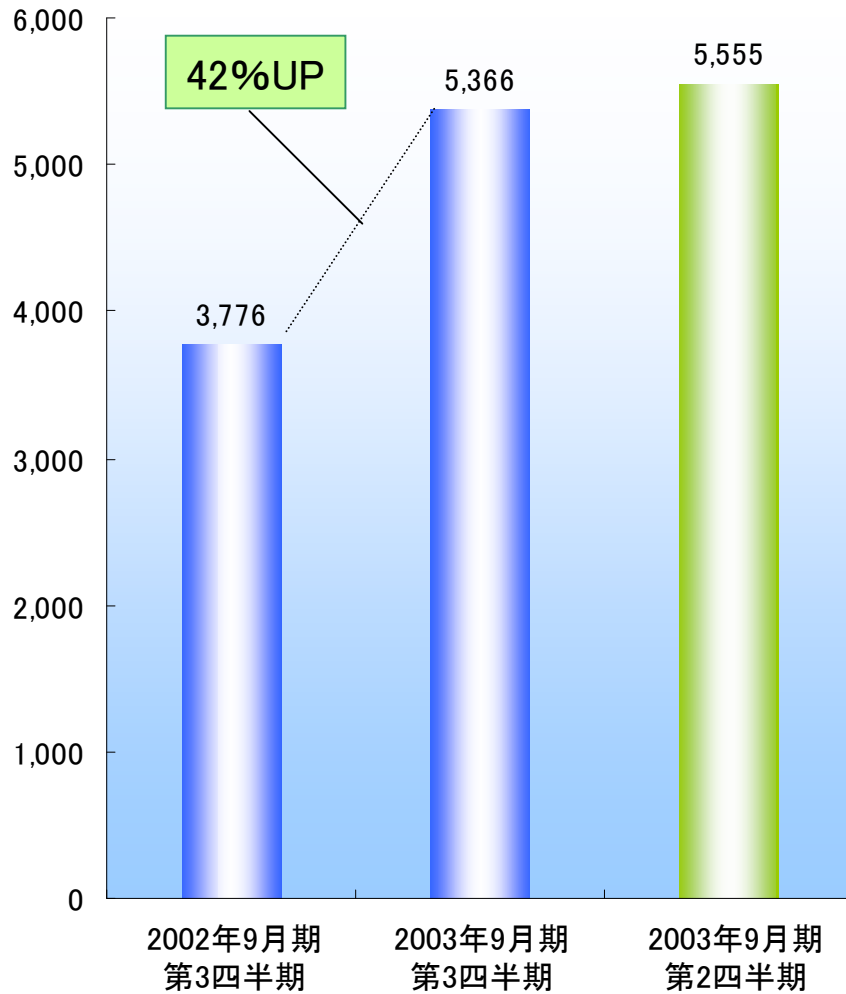


売上高

営業利益(損失)

単位: 百万円

単位: 百万円



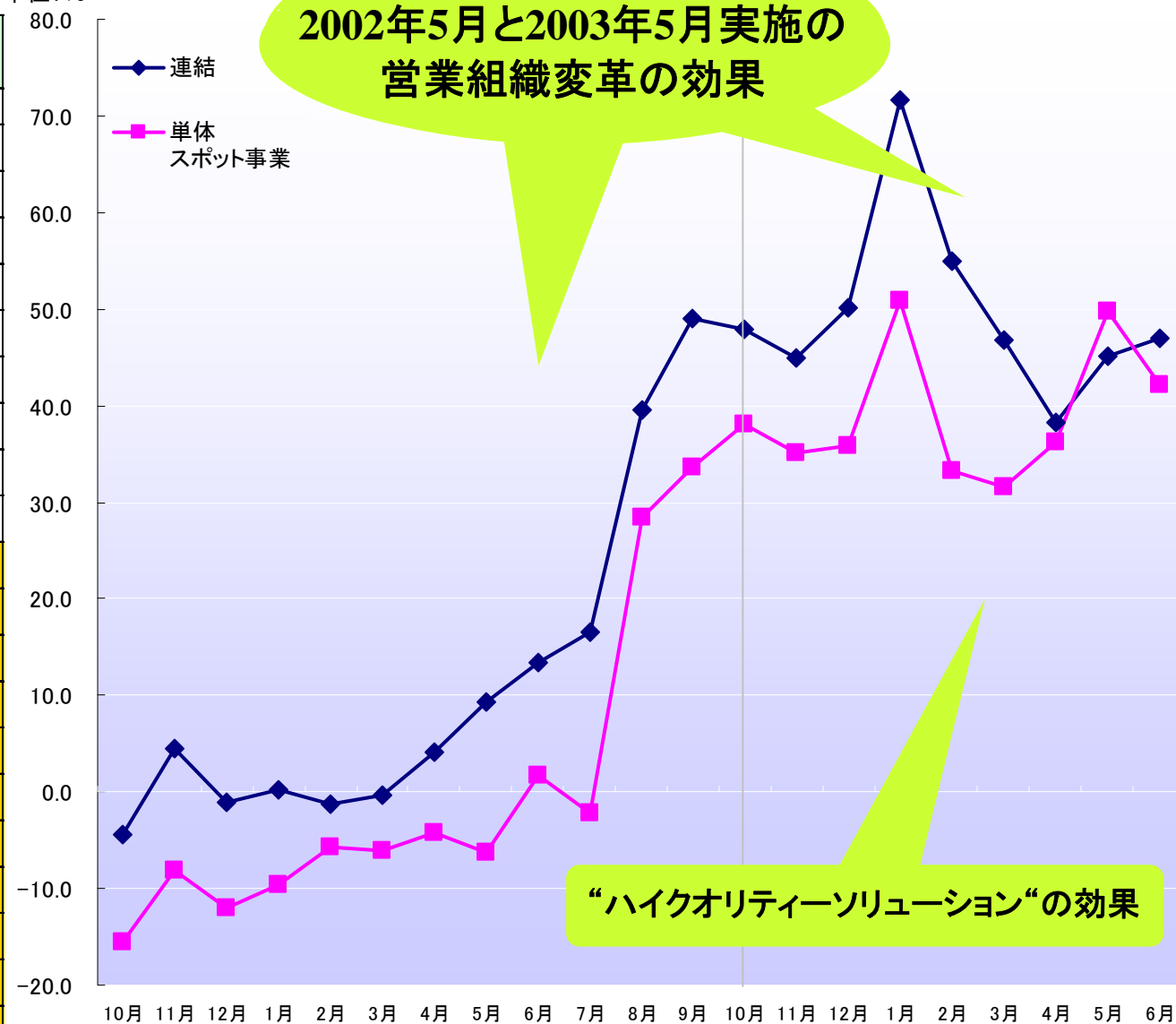


当社月次売上高実績前年伸び率

		連結	単体 スポット事業
10期	10月	△ 4.5	△ 15.5
	11月	4.5	△ 8.2
	12月	△ 1.0	△ 12.0
	(2002年) 1月	0.2	△ 9.6
	2月	△ 1.2	△ 5.8
	3月	△ 0.4	△ 6.1
	4月	4.2	△ 4.2
	5月	9.3	△ 6.2
	6月	13.4	1.7
11期	7月	16.6	△ 2.2
	8月	39.6	28.5
	9月	49.0	33.7
	10月	47.9	※38.1
	11月	45.0	※35.1
	12月	50.2	※35.9
	(2003年) 1月	71.6	※50.9
	2月	54.9	※33.2
	3月	46.8	※31.6
12期	4月	38.3	※36.3
	5月	45.2	※49.8
	6月	46.9	※42.1

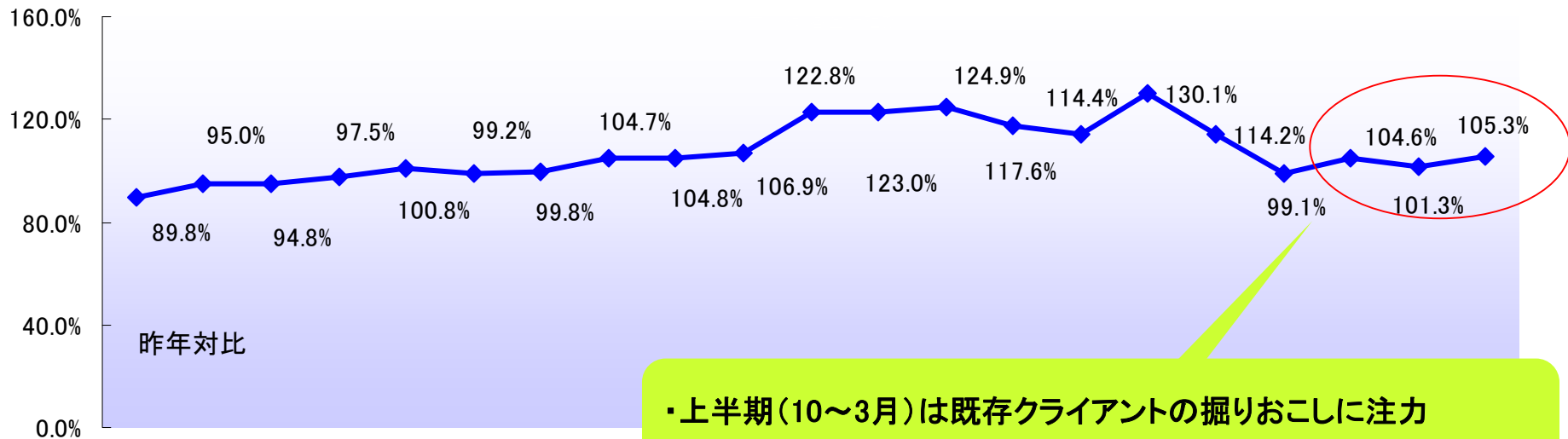
※はスポット伸び率

単位：%



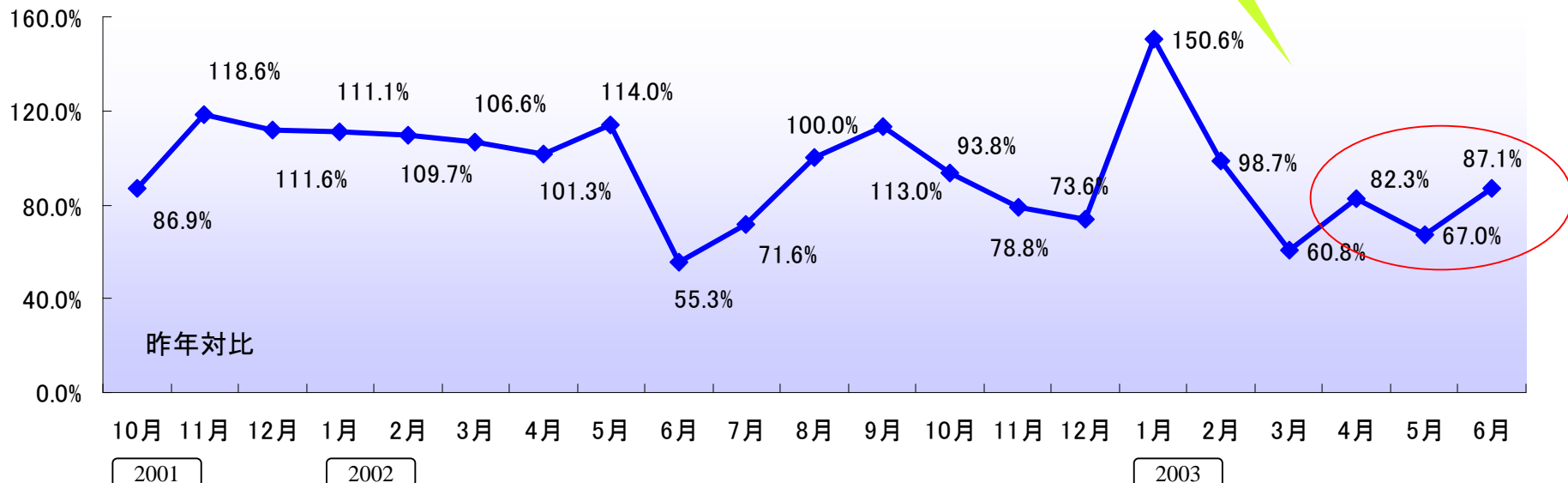


スポット事業取引顧客数前年比



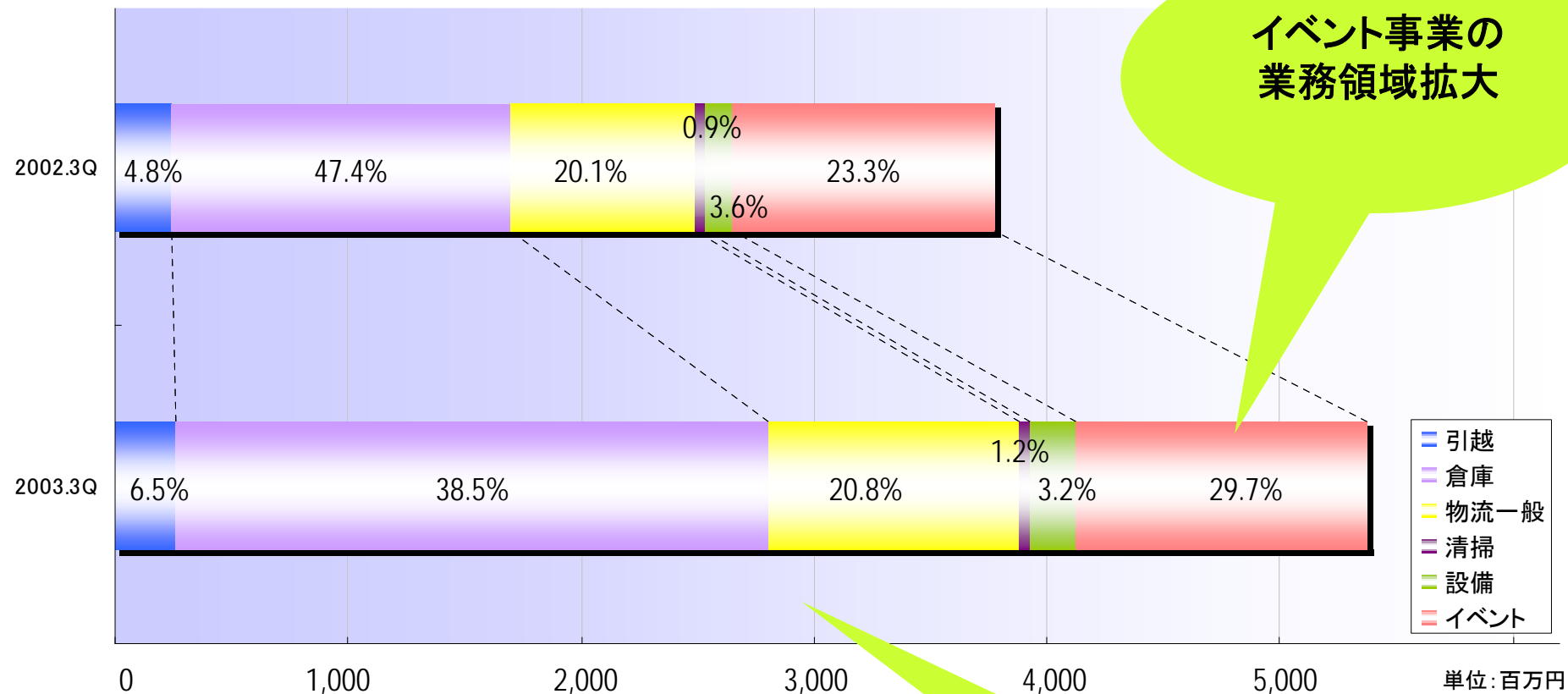
・上半期(10~3月)は既存クライアントの掘りおこしに注力
 ・組織変更(2003年5月付)し、今後は新規クライアント獲得に注力

スポット事業新規登録社数前年比





業種別売上構成比(第3Q比較)

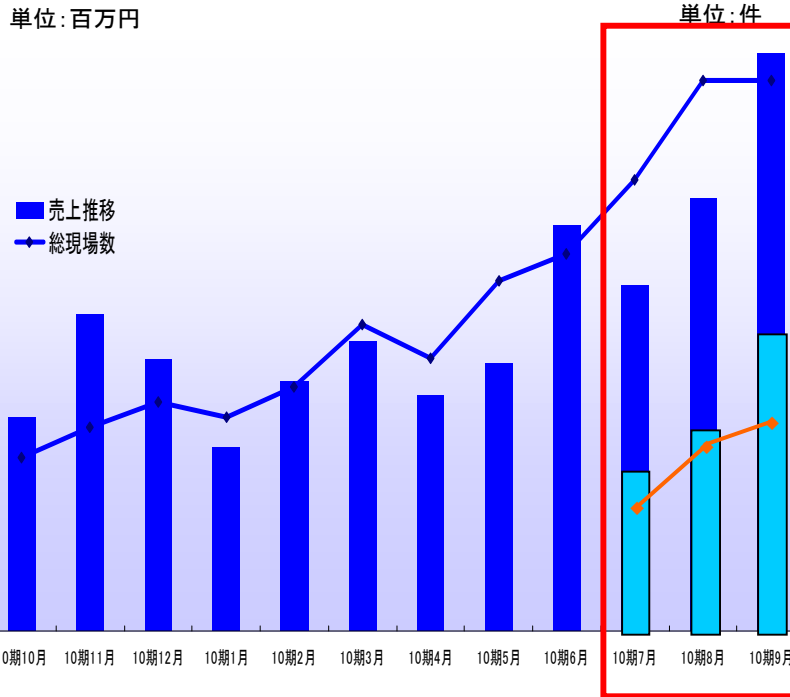


イベント事業の
業務領域拡大

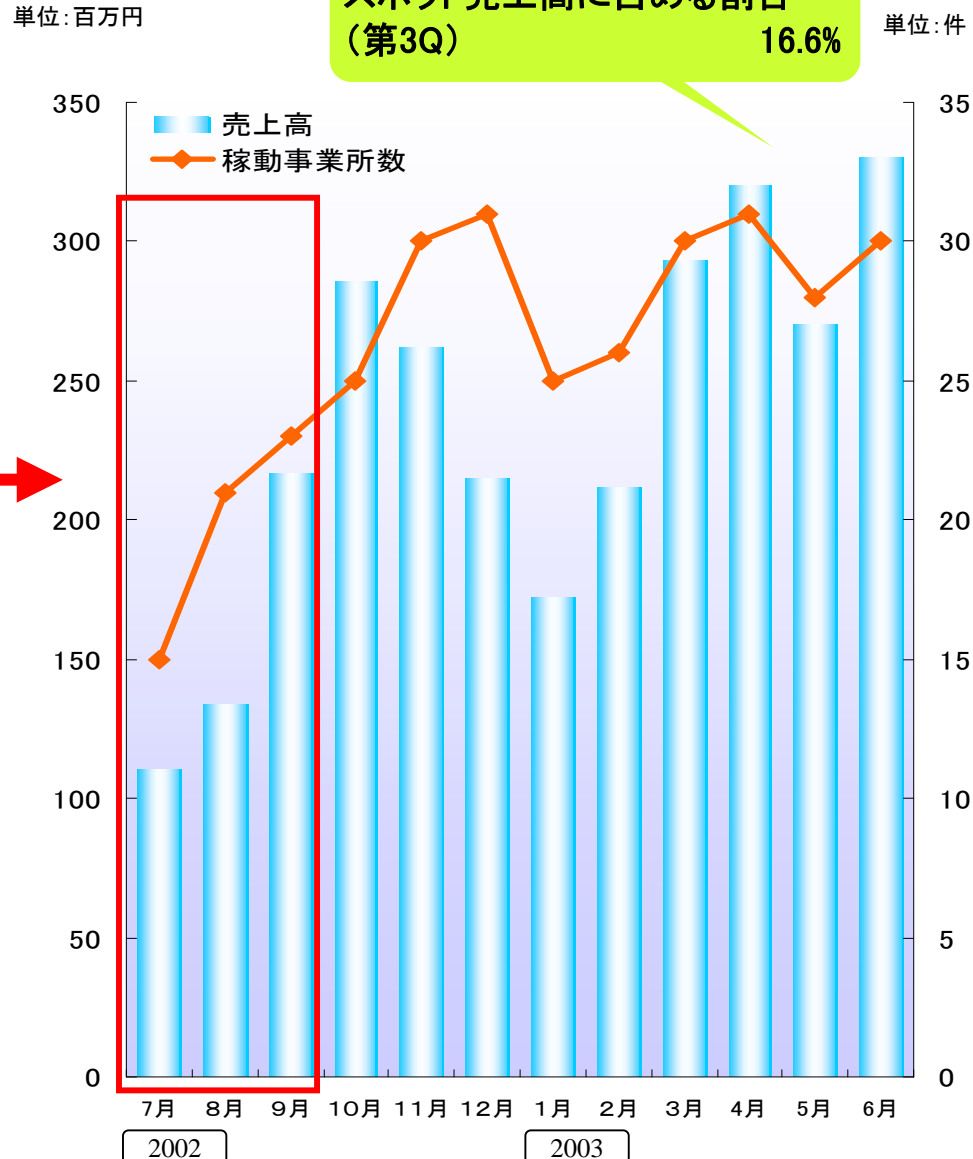
クライアントの倉庫業務の
見直しに伴う増大



売上高と現場数

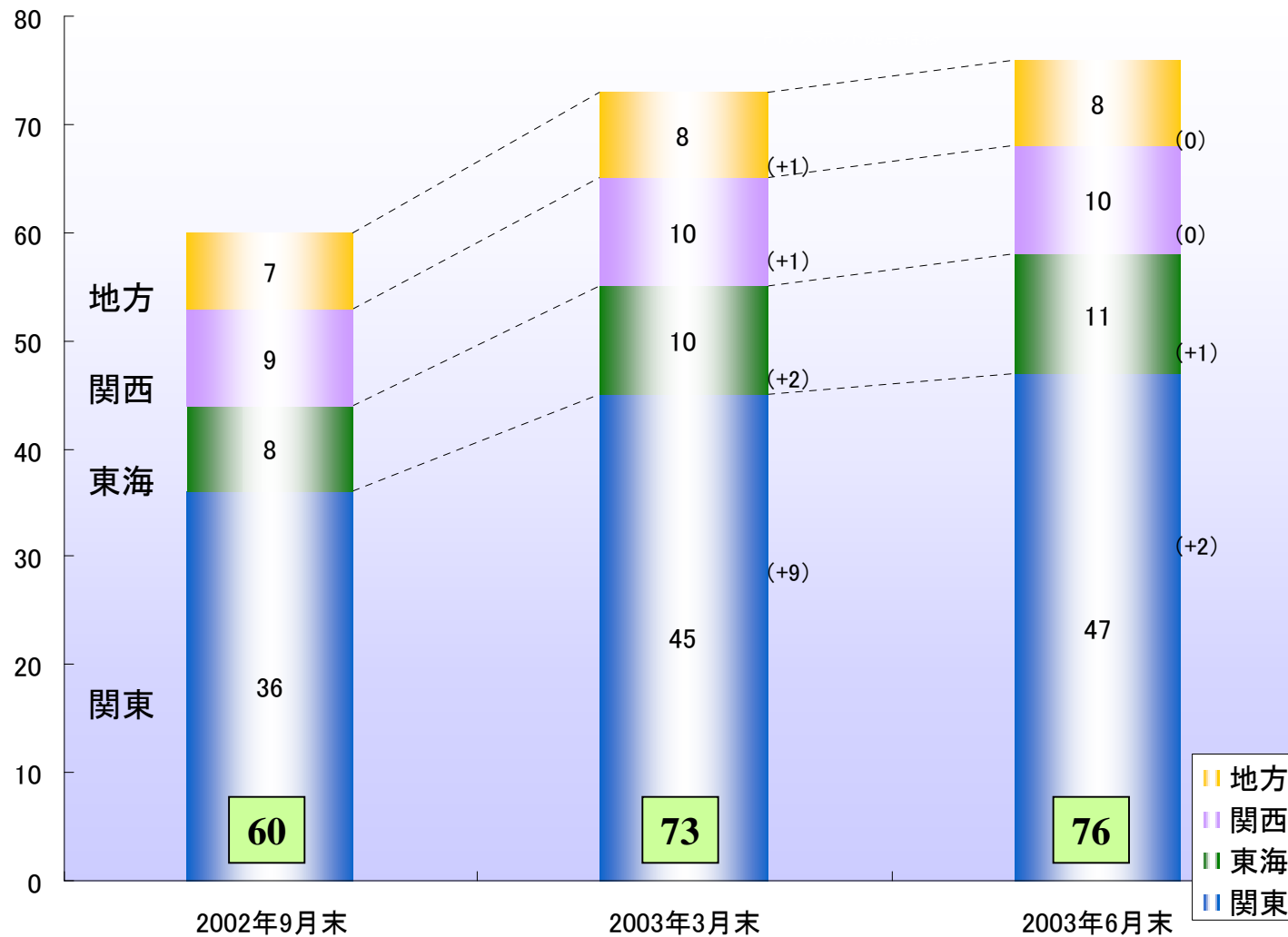


クライアント向けにカスタマイズした案件の実績推移



高品質と付加価値をもった
サービス提供

正社員業務のリプレイス



受注案件に対応し
拠点配置



スタッフ採用は
順調に推移

登録スタッフ数：628,987名

登録スタッフ数：701,718名

登録スタッフ数：739,773名

2003.9月期第3四半期(2003.4~6月期)
セグメント別営業実績

ファクトリー事業

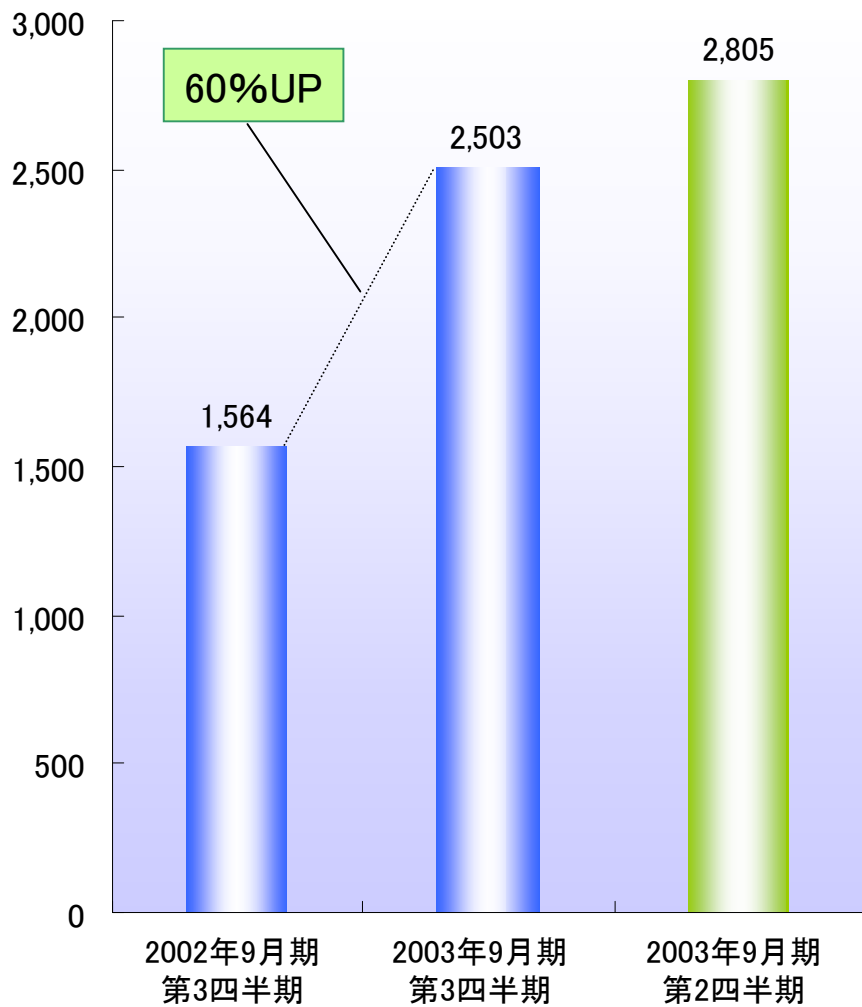
製造業の回復と営業利益率の改善



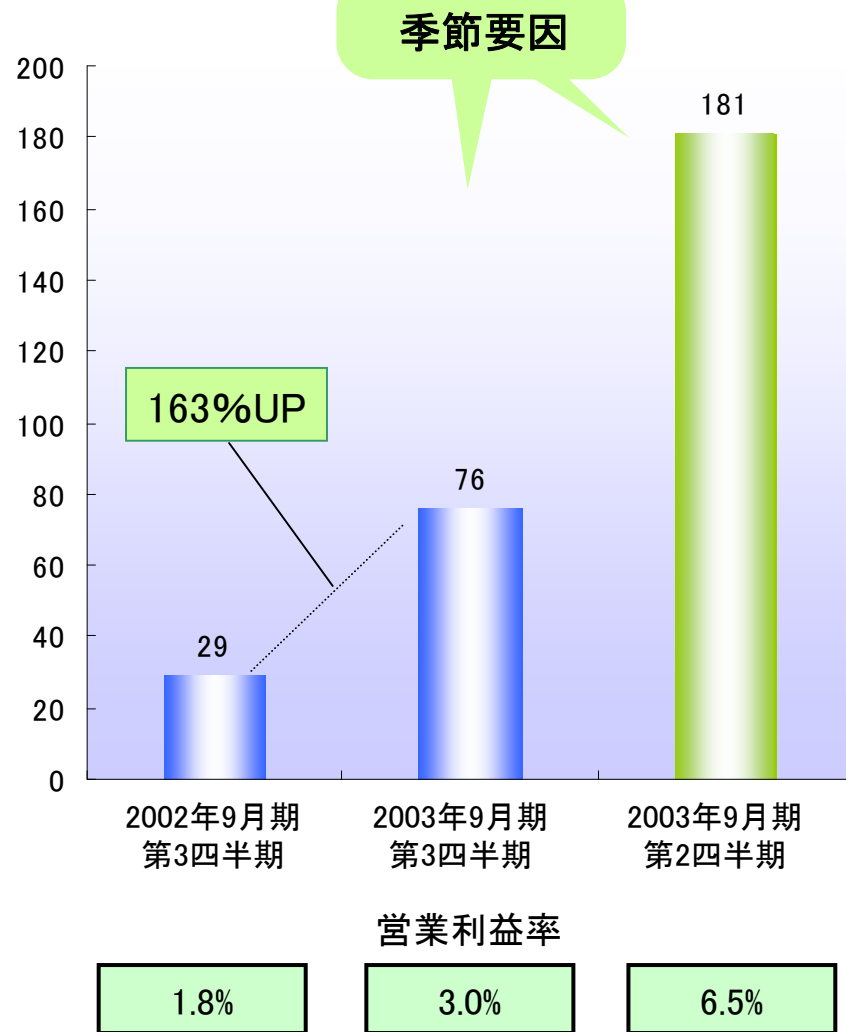
売上高

営業利益(損失)

単位:百万円

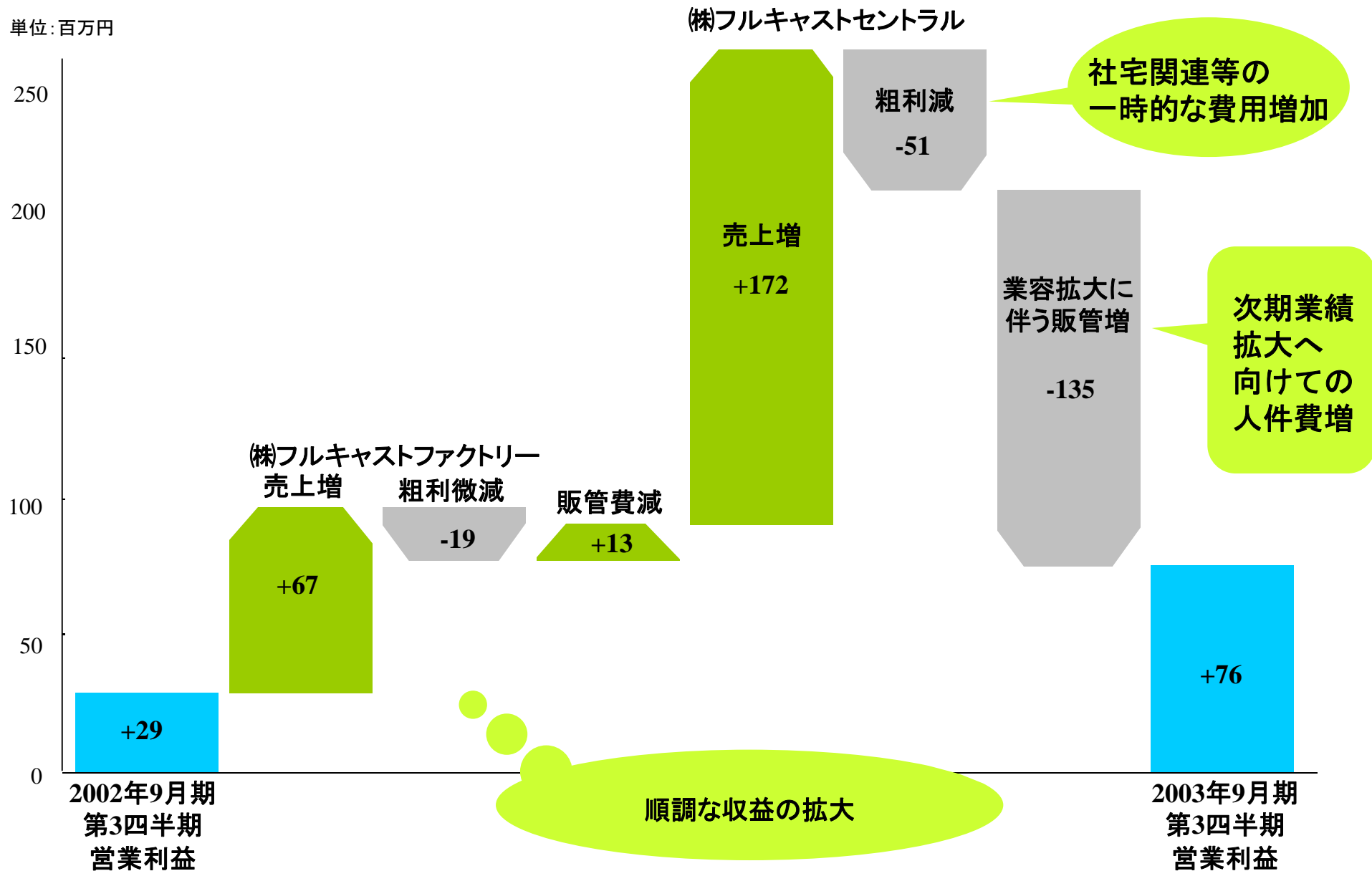


単位:百万円





単位:百万円

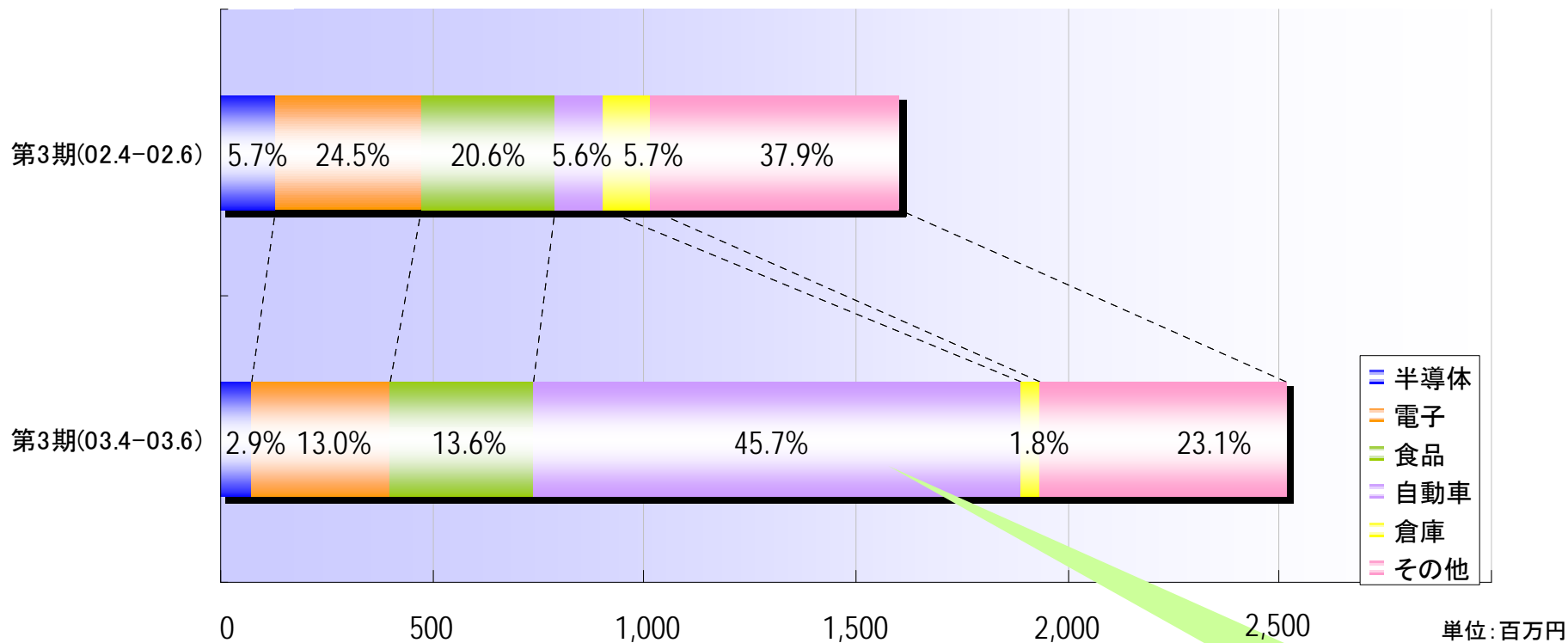


※(株)フルキャストセントラルは2002年4月1日設立のため収益寄与のみ記載



2003年9月期 第3Q 業種別構成比(4月~6月)

(2002年 第3Q/2003 第3Q比較)



(株)フルキャストセントラル
の順調な成長

2003.9月期第3四半期(2003.4~6月期)
セグメント別営業実績

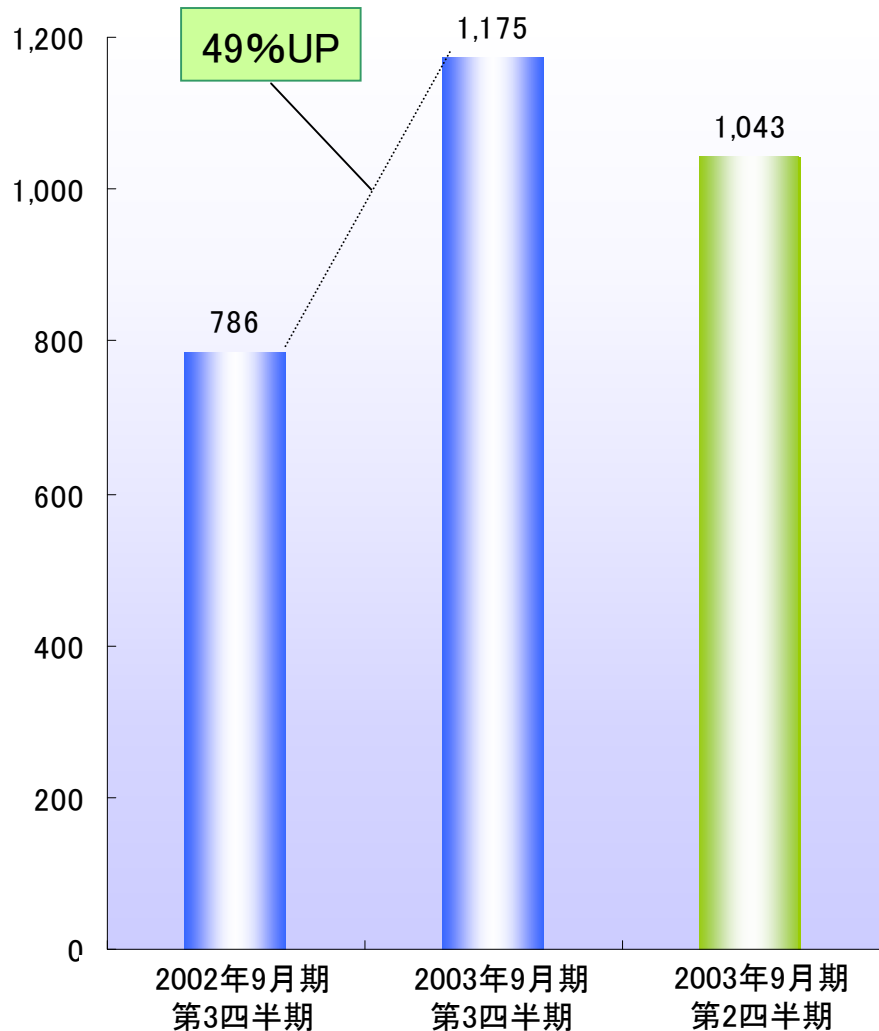
テクノロジー事業

技術者派遣の好推移と受託開発部門の改善



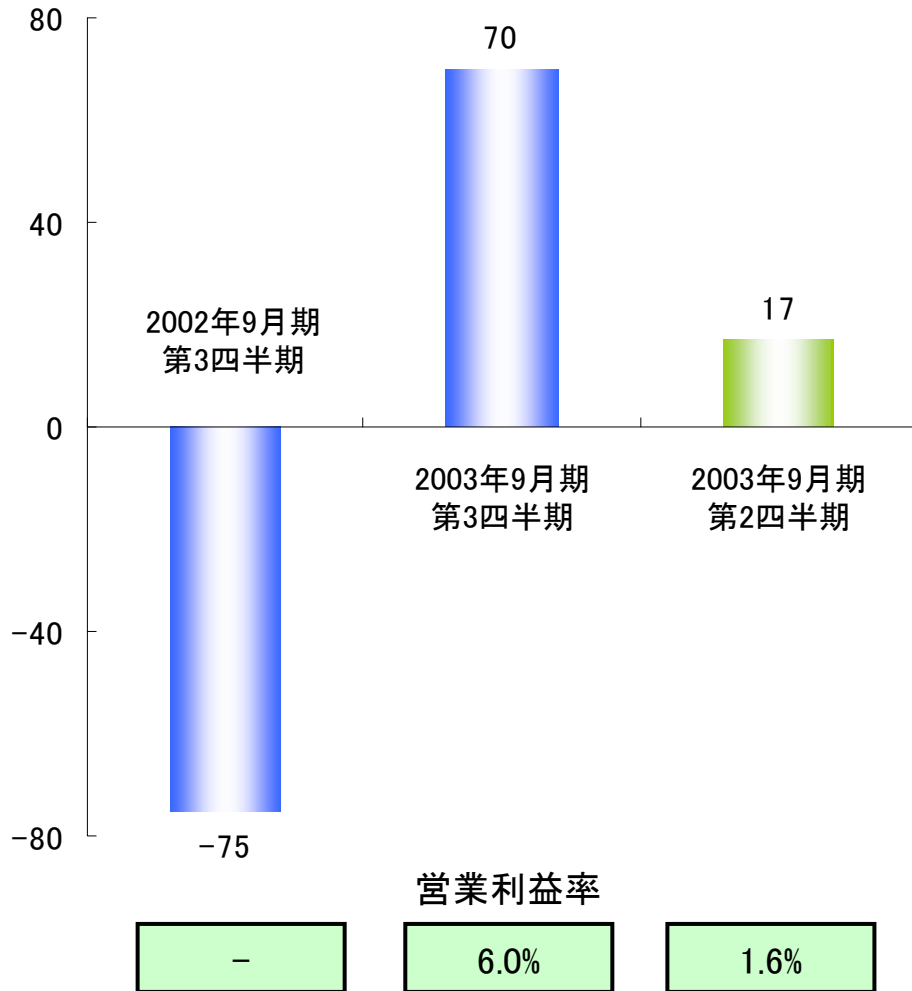
売上高

単位: 百万円



営業利益(損失)

単位: 百万円

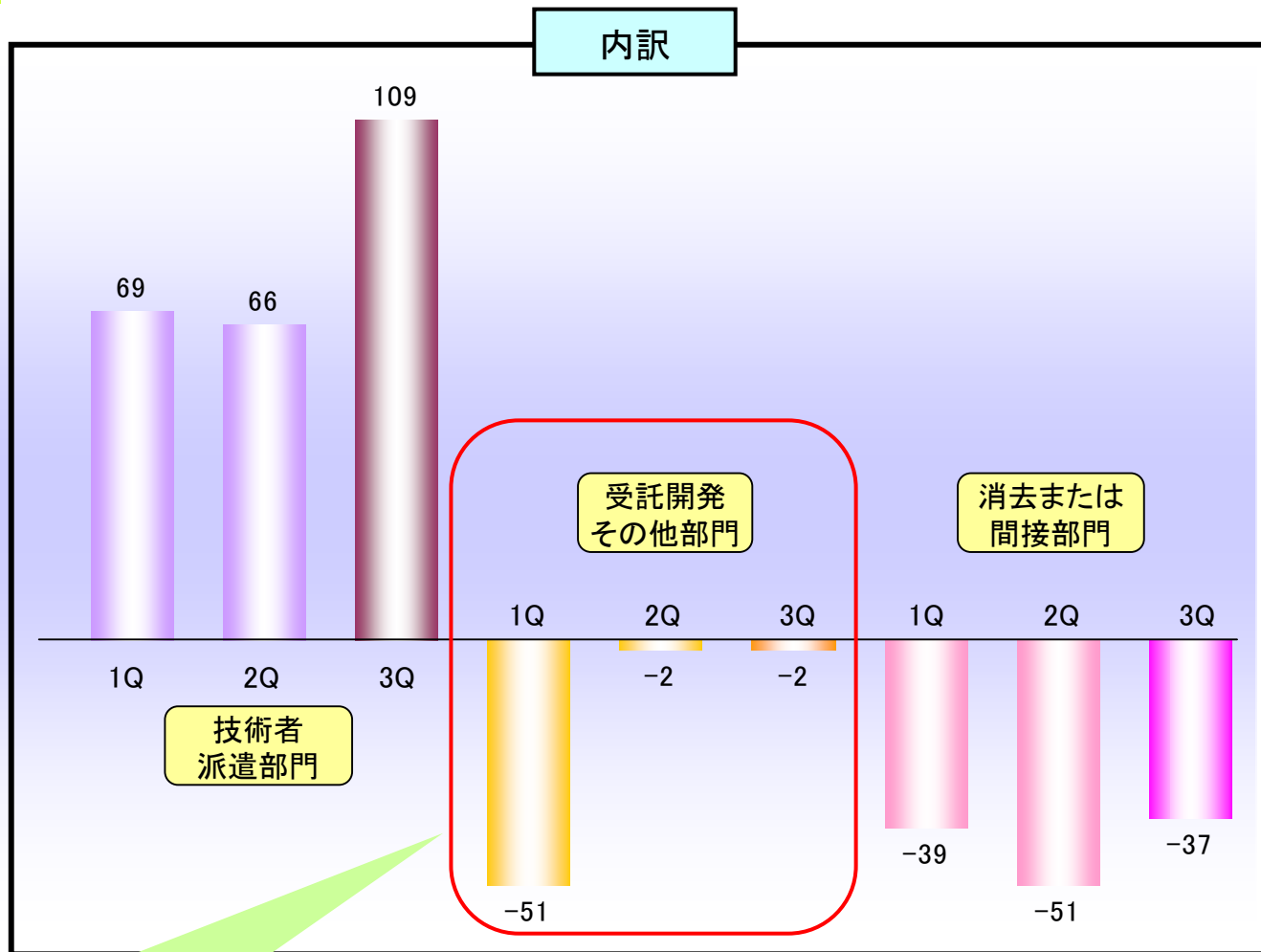
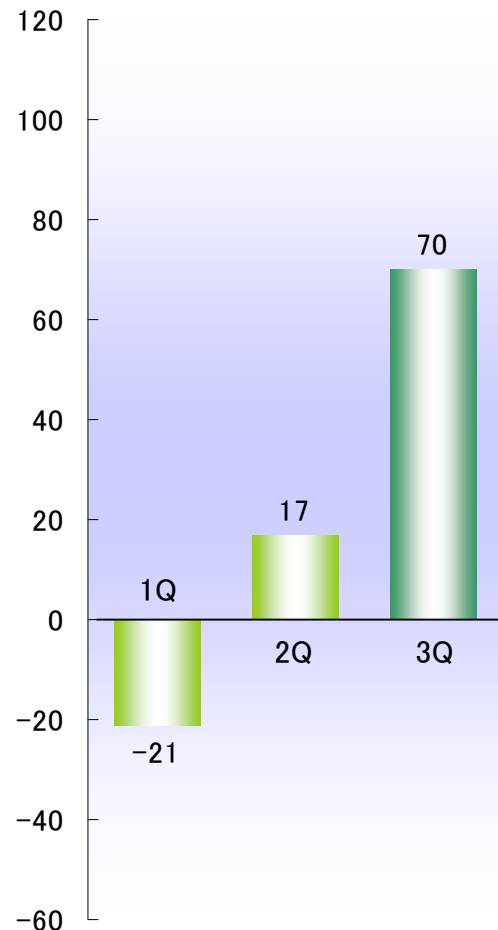


(注)当社グループの事業再編に伴い、平成14年9月期に「テクニカル事業」と区分して
 ございました(技術系業務請負・技術者派遣)と「その他事業」に含めておりました(情報
 通信)につきましては、「テクノロジー事業」に計上しております。このため「テクノロジー
 事業」の対前年同期比較は、当期の事業区分によっておこなっております。



営業利益(損失)

単位:百万円



不採算部門の整理、合併による
シナジー効果により改善

2003年9月期
第1四半期
(2002年10~12月)
||
1Q

2003年9月期
第2四半期
(2003年1~3月)
||
2Q

2003年9月期
第3四半期
(2003年4~6月)
||
3Q



進行基準ベース

テクノロジー仕掛品棚卸高
(3月末)

249百万円 ※1

進行基準とした場合の
追加売上高

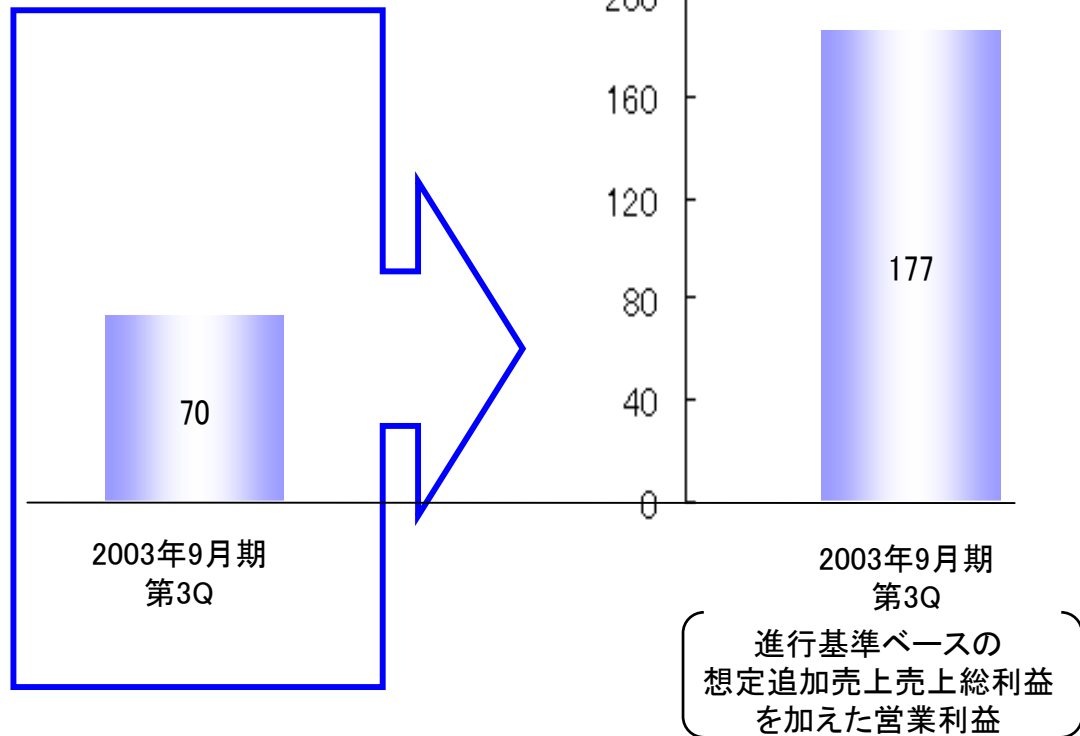
356百万円 ※2

進行基準とした場合の
追加売上総利益

107百万円 ※3

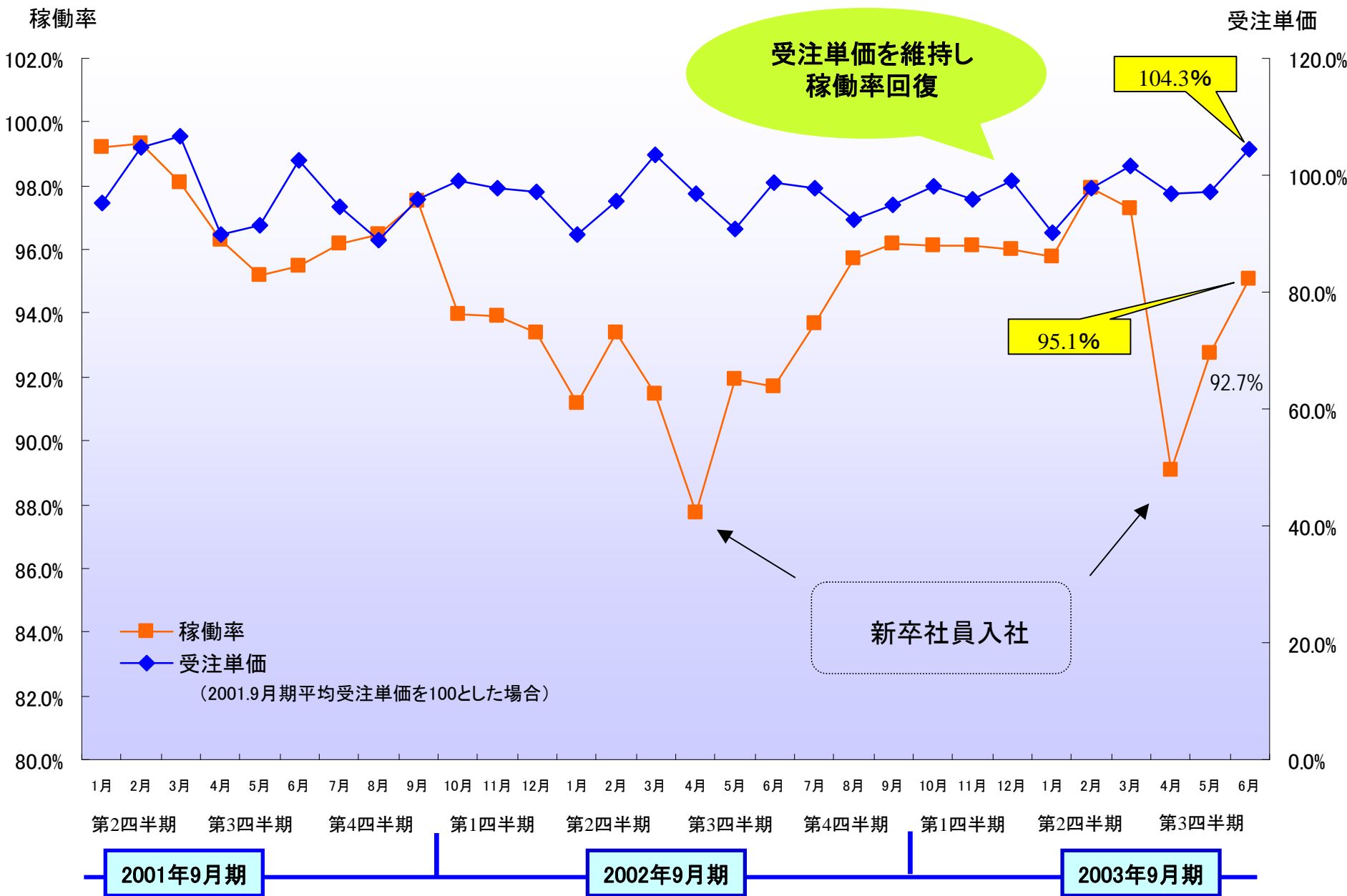
営業利益(損失)

単位: 百万円



※1 仕掛品棚卸高につきましては、当企業グループ向けとして173百万円計上しており、これに伴う追加売上総利益の連結業績への反映はわずかであり
ます。

※2 ※3 なお、追加売上高につきましては、2003年9月迄の納品および売上計上を予定しておりますが、計上が翌期に延期される等の理由により2003年9月期の業績に反映しない恐れがあります。

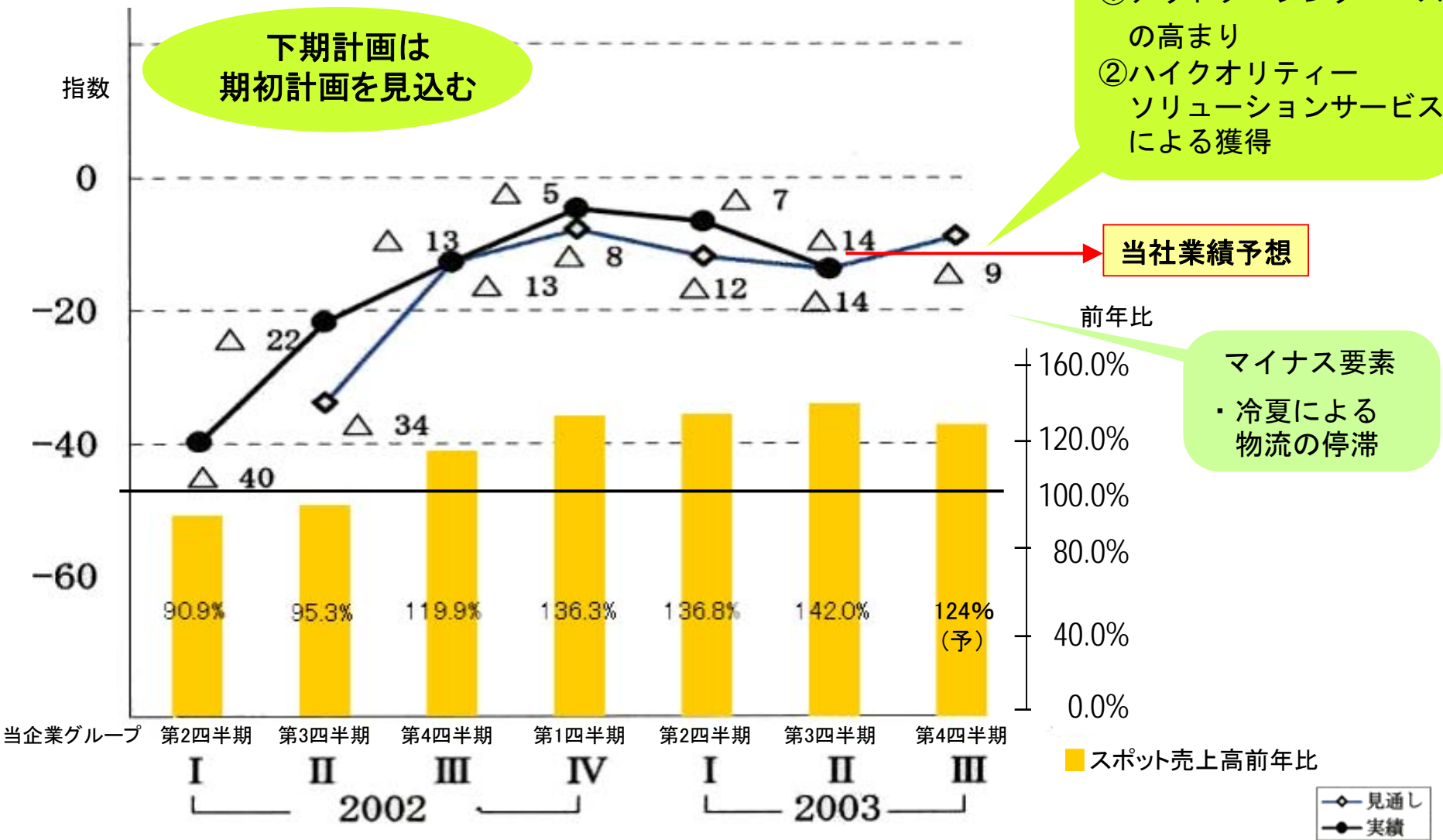


2003.9月期 業績予想と進捗状況

総合力による業績伸長



荷動きの見通しと実績(見込み)の『荷動き指数』



注)見通しは各期に入る前の時点の見通しにおける「荷動き指数」(2003年Ⅲ期の「荷動き指数」は今回調査時点の見通し)、実績は各期の途中の時点で判断した実績見込みの「荷動き指数」(2003年Ⅱ期の「荷動き指数」は今回調査における判断。

出所:日通総合研究所(企業物流短期動向調査2003年7月)



(単位:百万円)

2003年9月期 通期(予想)
2003年9月期 第3Q(実績)

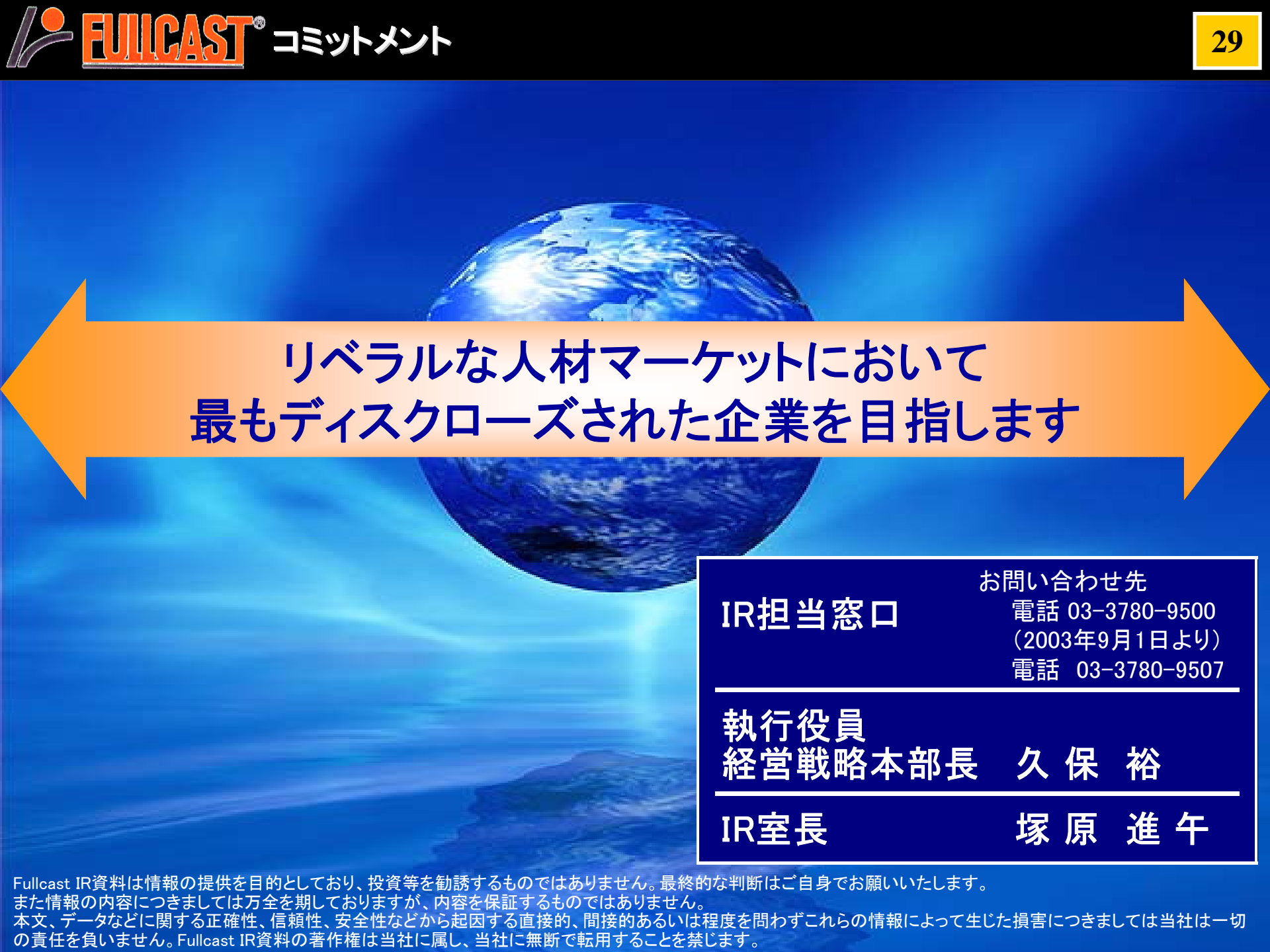
売上高	27,890 (+48.8%)	35,800 (+36.0%)
経常利益	1,776 (+91.6%)	2,550 (+71.8%)
当期利益	854 (+198.5%)	1,170 (+237.3%)
EPS:円	19,575 .94	26,589 .92
ROE:%	-	14.5
期中平均株式数	43,656	43,843 .5
設備投資額	287	800
減価償却費	162	250

ご注意 上記計画は現段階での当社の意向であり確約するものではありません。

()は前期伸び率



ご注意 上記計画は現段階での弊社の意向であり確約するものではありません。



リベラルな人材マーケットにおいて
最もディスクローズされた企業を目指します

IR担当窓口

お問い合わせ先

電話 03-3780-9500
(2003年9月1日より)

電話 03-3780-9507

執行役員
経営戦略本部長 久保 裕

IR室長 塚原 進午